

ボ
ン
ジ
ュ
ー
ル

Bonjour!



デュオ旭爪姉妹友の会 2007年12月22日発行

〒738-0060 広島県廿日市市陽光台5-9 アマノ病院内

☎info@hinotsume-shimai.jp

http://www.hinotsume-shimai.jp/fanclub/

ボンジュール (フランス語):

朝から夕方までの挨拶(あいさつ)の言葉。「こんにちは」「おはよう」



デュオ旭爪姉妹友の会 設立1周年を迎えて



昨年の10月に友の会を設立していただき、早いもので1年が経ちました。昨年末の第一回友の会交流コンサートに始まり、広島、岡山での友の会設立を記念してのコンサートや、広報誌「Bonjour!」の発行など、皆様の温かいご支援のお陰で、会の活動が充実して参りましたことを心より感謝いたしております。

フランスより帰国後、活動させていただくようになって3年が経ちますが、それぞれのコンサートでの一期一会を大切にしながら、今後もより一層姉妹で精進して参りたいと思っております。これからも皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

旭爪 裕美子
千恵

姉妹のここが知りたいQ&A

皆様から寄せられた様々な質問について、ご姉妹にお答えいただきました。

Q. お互いの演奏について、どのように感じていらっしゃるのか、お聞かせください。

A. 裕美子さん

妹はいつも自由に伸びやかに演奏していて、私は特に高音域の音色が好きです。また最近、情熱的な曲も向いているなと思います。

千恵さん

姉の外見からは想像できませんが、迫力のある力強い曲が合っているなと思います。

Duo (デュオ) をする上では、私の演奏をよく理解してくれているので、本番直前で曲の速さや表現のニュアンスを変えることがあっても、ピッタリと合わせてくれ、いつも感謝しています。

Q. お互いはどのような存在なのでしょうか？

A. 裕美子さん

昔からコンサートやコンクールなど、妹が同伴してくれている時には、良い結果につながる事が多かったですし、私にとってラッキーガールのような存在です。

千恵さん

妹思いで優しく、とにかく頼りになる存在です。

お互いに得意なことが違うので、普段でもいろいろな場面で助けてもらっています。

Q. いつもコンサートでの衣装はお揃いが多いですが、どのように選んでいらっしゃるのでしょうか？

A. 姉妹

それぞれのコンサートでの曲や会場のイメージに合わせて衣装を用意するのですが、同じデザインの色違いを着ることが多いので、お互いが同じ色を希望してしまった場合は、どちらかが譲るようにしています。

Q. たとえばどちらが譲られることが多いのでしょうか？

A. 裕美子さん

妹の方が似合う色が多いので、譲ってくれることが多いです。

Q. コンサートでは緊張されることがあると思いますが、何か特別にされていることがありますか？

A. 裕美子さん

気持ちの問題かもしれませんが、コンサートで使うハンカチは、成功した時の物をいつも使っています。また、落ち着くことができるように、お水やチョコレートは、気に入った同じものを持って行くようにしています。

千恵さん

恩師から、演奏するには体力が必要なので、コンサートの前日は、お肉を食べたほうが良いと教えていただいたので、カツレツ（勝つ？）を食べるようにしています。



Q. 音楽の道に進まれていなかったら何をされていると思いますか？ また生まれ変わることができるとしたら、何になりたいですか？

A. 裕美子さん

小さい頃から不器用なほうで、何でも器用にこなせるといったことがなかったのですが、音楽には自然に溶け込むことができたので、他の道はなかったように思います。生まれ変わることができるとしても、同じことをしているのではないかと思います。

千恵さん

絵を描いたり、洋服のデザインを考えたりするのが小さい頃から好きだったので、ヴァイオリンを習っていなかったら、美術関係の道に進んでいたかもしれません。生まれ変わることができるとしたら、やはりヴァイオリンを弾いていたいと思いますが、小さい頃憧れていたバレリーナになってみたいです。



会員のひろば

「挑戦」という言葉



倉敷市の美観地区の一画、4月15日に行なわれた「夢空間はしまや」でのコンサートは、懐かしさと緊張感で心地よい味わいがありました。それは旭爪姉妹との広島を離れた地での再会でしたし、静寂なたたずまいの旧家のホールで非日常的な質の高い音楽を味わうことのできた至福のひと時だったからです。もとより30年前のフォークソングを口ずさむ程度の、音楽は門外漢の私にとってクラシックは遠い存在でした。それが演奏する姉妹を目の前にして、クラシックの世界に身を委ねていることは不思議な思いでした。

初めて姉妹にお会いしたのはフランスの留学から帰国されてまもなくのことでした。当時私は廿日市に住んでおり、裕美子さんの清楚な美しさと千恵さんの愛らしい笑顔が印象的でした。話し方もとても丁寧でどこか違う雰囲気、有名大学からフランスへ留学されヨーロッパで活躍されていることを人から聞き、得心したものです。

姉妹の「クラシックを身近に」という思いから、子どもたちのためのコンサートや地域や病院などでのふれあいコンサートは地域の新たな息吹ともなっています。ファンには、音楽からお二人の人間性まで幅広く魅了されている人が多いようです。いつも控えめな立ち振る舞いからは想像できませんが、姉妹には「挑戦」という言葉があっているのかもしれませんが。友の会の会員には、地域再生や創造をめざして活動されている方も多くおられます。それはきっと新たなものに挑戦する姉妹への共鳴にも由来しているのでしょう。

デュオ旭爪姉妹が地域密着であってほしいと思いつつも、全国への地歩を着実に進められることを願っています。活躍の場はどこであっても「広島宝物」であることに変わりはないのですから。

(大阪府吹田市 浅原弘之)

デュオ旭爪姉妹との出会い

いったい38年間の教職生活でどれだけの皆様と出会い、ご縁ができたのでしょうか。生徒はもちろんのこと、保護者、教職員、地域の皆様、ご指導くださった方々……。出会いは偶然でも、そこからご縁が深まり、私の人生を彩り豊かにしていただきました。そして、お一人お一人との忘れられないエピソードも生まれました。

旭爪姉妹との初めての出会いは、平成16年1月頃だったと記憶しています。当時のPTA会長だった小田さんが、「フランス留学から帰国し、素晴らしい演奏をする音楽家姉妹がいらっしゃる。妹さんは四季中卒業生ですよ。校長、ぜひ全校生徒に聴かせましょう！」と話をもってこられました。願ってもないよいお話です。しかし、学校は3月10日が卒業式。それまでに入学試験があり、三学期は時間的にも忙しい時期であり、演奏会を急に行事に組み込むことは困難でした。来年度にとも考えましたが、子どもたちがレベルの高い生演奏を聴くチャンスは滅多にありません。その上、卒業間近な3年生が、夢の実現に向けて頑張っている先輩の姿を見ることは、何よりも大きな励みになります。いろいろ思案のすえ、2月末の生徒会主催行事の「3年生を送る会」で演奏していただくことにしたのです。そして、その打ち合わせが私と旭爪姉妹との初めての出会いになったのです。

清楚で可憐なお二人を見た瞬間に、寒い季節に暖房もなく音響効果の悪い体育館で演奏していただくことを本当に申し訳なく思いました。ところがお二人は、中学校で演奏できることは嬉しいものの、子どもたちに楽しく聴いてもらえるだろうか心配されるのです。私は、どんな演奏会であっても、観客により音楽を届けたいというお二人の熱い思いを知り、感激いたしました。そして演奏会当日、姉妹は颯爽とステージに立ち、さわやかな明るい笑顔で、美しい音色を奏でられ、子どもたちの心を魅了されたのです。あわせて子どもたちは、先輩が「夢の実現—多くの人々にクラシック音楽の楽しさや素晴らしさを伝えたい」と、真剣に努力されている姿も目の当たりにすることができたのです。しかも、こんな素晴らしい音楽家が身近に住んでいらっしゃる。子どもたちは、どんなに誇らしく自慢に思ったことでしょうか。私も同じ思いでした。忘れることのできない楽しいひとときとなりました。

デュオ旭爪姉妹と本当によい出会いをさせていただき、心から感謝しています。どうかこれからも夢を追い求め、多くの皆様に音楽の素晴らしさと感動を届けてください。お二人の益々のご活躍をいつまでも応援しています。

(前 四季が丘中学校 校長 河野正臣)



やすらぎの旅

去る九月八日、ひろしま美術館での旭爪姉妹のコンサートに行ってみました。

ミレーやマネ、ゴッホ、ピカソなどの錚々たる作品に囲まれた本館ドームで、絵画の世界を旅するように音楽でもまた「音楽の旅」というテーマの今回のコンサートは、始まる前から絵画の放つ圧倒的な雰囲気にも包まれ、何か厳肅な、既に異世界に居るような感じで、少なからぬ緊張と期待感に満ちていたように感じられました。



やがて登場されたお二人のドレス姿にうっとりする中、マスカーニのカヴァレリア・ルスティカーナより「間奏曲」でコンサートは始まりました。いつものエルガーの「愛の挨拶」も爽やかな感じで、千恵さんのヴァイオリンにはいつもうっとりさせられるのですが、今回はいきなり涙の出るような美しいメロディーの、綺麗で儂い中にも激しい情熱が迸るような演奏で、衝撃的なオープニングでした。

私はもともとクラシック大好き人間というわけではないので、クラシックの作品も、作曲者についても知らないことが多いのですが、旭爪姉妹の演奏を初めてお聴きして一遍で大ファンになってからというもの、お二人の演奏会に出かけては未知の素敵な音楽に出会えるのを楽しみにしております。

この日も私好みの曲ばかりで、中でもシューマンが後に妻となる女性に贈った曲をリストが編曲したという「献呈」などは、美しい旋律にリストならではの華麗な技巧が脚色されているという裕美子さんのお話通り、愛と情熱に溢れ、激しくきらびやかで圧巻でした。

ベートーヴェンやグリーグの「ヴァイオリンとピアノの為のソナタ」などでも、お二人のヴァイオリンとピアノが美しく引き立てあいながらもお互いに凛として主張しあい、鮮やかな残像となっていくまでも消えません。今日もお二人の音色に心洗われた一時間でした。

(廿日市市 黒木理江)



美しいミュージック「旭爪姉妹」

今をときめくデュオ「旭爪姉妹」にお会いしたのは、確か3年前の12月頃だったと記憶しています。廿日市市にお住まいの知人の方にご紹介していただいたのがご縁でした。

早速、アマノ病院でのコンサートをお二人にお願いしたところ、快くご承諾くださり、初のアマノ病院でのコンサートとなりました。以後、毎年のように病院でのコンサートを行っていただいています。

「なかなか素晴らしい音楽を聴く機会の少ない6歳未満の子供たちに、ぜひ本物の音楽を聴かせてあげたい!!」という私のわがままも、お二人はいやな顔もされず、聞き入れてくださっています。

病院のコンサートには、いつも宮園保育園の年中さんと年長さんをお招きして、お二人の素晴らしい演奏を聴いていただいています。お二人の伴奏で子供たちも歌を歌ってくれます。旭爪姉妹の伴奏で歌が歌えるなんて、宮園保育園の子供たちも幸せですよ!!

「うちの子、先日、お二人の音楽を聴いて、ピアノを習い始めたんですよ。」と、保育園のお母様方からお聞きしたこともあります。「コンサートを企画してよかった。」と、心から思えました。

ギリシア神話の中で、太陽神アポロンに使える9人の女神ムーサ。音楽と詩を司る女神です。英語のMusic(音楽)やMuseum(美術館)も、この女神たちの名に由来します。Muse(ミュージック=ムーサの英語名)という言葉は、まさにお二人にふさわしい言葉です。お二人の奏でるピアノとヴァイオリンのハーモニーは大変に美しい。そして、お二人が音楽を奏でている姿も大変に美しい。まさに、ギリシア神話のムーサ達がこの世に降り立ったかのように思えます。

どうかお二人とも、いつまでも美しいミュージックでいてください。そして、お二人の美しい音楽で、たくさんの人を幸せにしてください。お二人の益々のご活躍を心からお祈りしています。

(アマノ病院 院長 天野純子)



デュオ旭爪姉妹友の会のご案内

◇ご入会資格

- (1) デュオ旭爪姉妹のファンであること。(2) デュオ旭爪姉妹を応援していただけること。

○主な活動内容

広報誌「Bonjour!」の発行、交流コンサートの開催、メールマガジン「友の会通信」の配信 ほか

入会ご希望の方は、デュオ旭爪姉妹公式ウェブサイト (<http://www.hinotsume-shimai.jp>) または別途入会申込書によりお申し込みください。

(※初期費用として入会金1,000円のみご負担いただいております。年会費はありません。)

私達もデュオ旭爪姉妹を応援しています。

お土産に、ご贈答に・・・

全業博名誉総裁賞受賞

安芸銘菓

広島名物

桐葉菓

もち饅頭

チョコ・抹茶・つぶあん・クリーム・チーズクリーム



やまだ屋

本店／廿日市市宮島町 835-1 ☎(0829)44-0037
大野支店／廿日市市沖塩屋 1-9-16 ☎(0829)55-0001

アマノ病院

TEL.0829-37-0800
総合リハビリテーション施設
児童デイサービス おひさま

あまのクリニック

TEL.0829-31-5151
通所リハビリテーション
重度認知症患者デイケア
訪問看護・訪問リハビリテーション
居宅介護支援事業所



内科／リハビリテーション科／循環器科／皮膚科
心療内科／神経科／神経内科／放射線科

地球にやさしい
エコ素材のユニフォーム



株式会社 いとや
広島市中区本通 2-7
TEL.(082)248-1338

“VAN” 正規取扱店

SEBIROYA

広島市中区本通り 1-19
TEL.(082)247-1585
FAX.(082)247-1586



四季折々の材料
豊富に揃えて・・・

Fresh Foods
And business use.

広島市西区商工センター 5-9-5
☎(082)501-2501